

指定管理者の管理運営に対する評価シート

所管課	土木建築部河川課
評価対象期間	平成25年4月1日～平成26年3月31日

1 指定概要

施設概要	名称	大分県リバーパーク犬飼	施設種別	レクリエーション・スポーツ
	所在地	大分県豊後大野市犬飼大字田原字舞田		
	設置目的	大野川の優れた景観を生かし、スポーツ及びレクリエーションの場を提供することにより、県民の健康で文化的な生活の向上を図る。		
指定管理者	名称	豊後大野市		
	代表者名	豊後大野市長 橋本 祐輔		
	所在地	大分県豊後大野市三重町市場1200		
指定管理業務の内容	① リバーパーク犬飼の施設等の維持管理及び修繕に関する業務 ② リバーパーク犬飼の利用の受付及び案内に関する業務 ③ リバーパーク犬飼の利用の促進に関する業務 ④ 前各号に掲げるもののほか、県が特に必要と認める業務			
料金制度	利用料金 ・ 使用料 ・ 該当なし			
指定期間	平成25年4月1日～平成30年3月31日(5年間)			

2 評価結果

評価項目及び評価のポイント	配点	評価レベル	得点
1 施設の設置目的の達成(有効性の向上)に関する取組み	50		40
(1)施設の設置目的の達成	30	4	24
①計画に則って施設の管理運営(指定管理業務)が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか(目標を達成できたか)。			
②施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。			
③複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。			
④施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】			
○ 目標指標である利用者数については、目標値10,200人に対し、25年度は13,491人(達成率132.3%)と目標値を上回って達成しており、評価できるものとなっている。			
○ グランドの利用状況は年間1万人程度で推移しており、小中高校やトリニータの練習拠点として年間を通じた利用が定着している。昨年度は、通常の練習利用が増えたことに加え、社会人や試合会場としての利用が増えている。			
○ 天然芝であることに加え、費用のかかる冬芝へのオーバーシード(1面のみ)がグランド利用者の利便性を高める取組みとして好評を得ている。			
○ 施設の管理を市が所有するリバーパーク犬飼と共通で行うことにより、経費の節減とともに施設間の有機的な連携が図られている。			
○ 芝のコンディションを維持するためには、現状の利用数がほぼ限界といわれ、現時点では、広報活動などによる利用者の増加を図る必要はないと考えている。			

(2) 利用者の満足度			
①利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。	20	4	16
②利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。			
③利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。			
④利用者への情報提供が十分になされたか。			
⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】			
○ 施設利用者へのアンケートを実施した結果、満足度は全ての項目で4点(大いに満足)と3点(満足)で評価されており、不満との回答はなかった。平均では4点満点で3.4点と前年度の3.6点に引き続き高評価であった。アンケートの配布数は50件であるが、施設利用者は年間を通じてリピーターがほとんどであることから、適当なサンプル数と言える。			
○ 実地調査から利用者与管理人とのコミュニケーションも良好であることが窺え、利用者の多くが施設の管理状態に満足していると考えられる。			
○ 利用者から施設管理上問題となるような苦情などは特になかった。			
2 効率性の向上等に関する取組み	20		16
(1) 経費の低減等	10	4	8
①施設の管理運営(指定管理業務)に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。			
②清掃、警備、設備の保守点検等の業務について再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。			
③経費の効果的・効率的な執行がなされたか。			
【評価の理由】			
○ 大分県リバーパーク犬飼は、指定管理施設の管理運営費を利用料金で賄うこととしているため、県からの委託料の支出はない。 豊後大野市では、指定管理施設についても行政改革大綱(計画期間:H17~H31)の方針に沿って策定した第2期豊後大野市行政改革集中改革プラン(計画期間:H22~H26)において施設の見直しを行い、毎年プランの進捗管理と情報公開を行っていることから、十分な経費低減の取組がされていると評価出来る。			
(2) 収入の増加	10	4	8
①収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。			
【評価の理由】			
○ 昨年度の利用者の大幅な増加により利用料金収入が、昨年度から28.5%増となったことは評価出来る。しかし、利用者から評価の高い天然芝は、利用者(利用時間)の増加と芝のコンディション維持がトレードオフの関係にあるため、年間1万人程度の利用数がほぼ限界となっている。このため、現状の小中高校やトリニータの練習拠点としての定期的な利用形態が変化し、利用が極端に落ち込むことがなければ、今以上にグラウンドの利用促進を図ることは困難である。			

3 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組み	30		18
(1)施設の管理運営(指定管理業務)の実施状況	15	3	9
①施設の管理運営(指定管理業務)にあたる人員の配置が合理的であったか。			
②職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか。			
③地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。			
【評価の理由】			
○ 管理人は市の管理するリバーパーク犬飼との兼任で最低限の人数で運営されているが、ベテラン職員が対応しているため、利用者アンケートでの満足度も高く、利用者との関係は良好である。			
○ 嘱託職員は、AED使用方法等を学ぶため市消防本部が実施する普通救命講習を受講している。			
(2)平等利用、安全対策、危機管理体制など	15	3	9
①関係法令(地方自治法、労働関係法令、通則条例、設置条例等)が遵守されているか。			
②施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切に実施されているか。			
③利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。			
④施設の管理運営(指定管理業務)に係る収支の内容に不適切な点はないか。			
⑤管理物件の修繕や日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。			
⑥防犯、防災対策等の危機管理体制が適切であったか。			
⑦事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。			
【評価の理由】			
○ 安全管理体制や災害発生時の対応については、安全管理マニュアルを整備し緊急時に備えている。			
○ 基本協定に基づいた施設や貸与物品の補修は迅速かつ適切に行われている。			

【選定委員の意見】

- 任意指定施設のため該当なし

【総合評価】

合計得点(100点満点)	74	評価ランク(A~E)	C
--------------	----	------------	---

【評価の理由】

- 大分トリニータのJ2降格など、県内のサッカーを取り巻く状況が楽観視できない中で、大分市内の学校がわざわざ練習に来るのは、天然芝が適切に管理されていること等、管理者の努力によるところが大きく、安定してグラウンド利用者が確保できていることは大いに評価できる。

【今後の対応】

- 今後もサービスレベルを落とさずに、年間1万人前後の利用状況を維持することが大切である。
- 県が貸与しているグラウンドの整備機器の内、乗用草刈り機は25年度に更新したが、その他の機材についても平成9年の開園以来更新しておらず、修理費用がかさんでいる。このため、これらを計画的に更新する必要がある。

【指定管理者評価部会の意見】

- 多目的グラウンドは適切な管理により、リピーターが定着しており、目標指標である利用者数は132.3%と高い達成率となっていることは、評価できる。
- カヌー場に関しては、利用実績が不明確であるため、利用実績の把握に努めるとともに、カヌー場利用者にアンケートを行い、ニーズを把握したうえで利用促進の工夫を望む。
- 指定管理者である豊後大野市は、多目的グラウンドの冬芝への張り替えを行っている。これは、利用者の利便性を考えた指定管理者独自の判断であるが、それに係る約400万円の費用も豊後大野市が負担している。豊後大野市の意向も踏まえ、県の施設として公益性と採算性のバランスを考え、経費低減に取り組んでほしい。